資料3

事務局説明

令和4年1月6日（木） 教育委員会

事務局説明

1	会議概要	（P3～5）
2	第1回、第2回会議について	（P6～11）
3	第3回会議について	（P12～16）
4	第4回会議について	（P17～20）
5	第5回会議について	（P21～25）
6	第6回会議について	（P26～27）
7	協議事項	（P28）

１－１．会議の目的

● 昨年度に続き、**教育大綱の実現**に向けた協議を展開し、**教育立市の更なる深化**を目指す

岐阜市教育大綱が掲げる**基本理念**及び**目指す姿**の**実現**に向けて、

昨年度までの**協議**の**軌跡**、具現化した**施策**との**連環**を意識しつつ、

市長と教育委員会による協議･調整のもと、**更なる教育施策**の**検討･推進**を図る

1. **次年度に取組むべき施策**を具体化し、**立案**する
2. **中長期的に取組む施策**の**方向性･見通し**を共有する

▶▶▶ **「こどもファースト」の理念** に基づく **教育立市の更なる深化**

1−2．会議日程

● 今年度、以下のとおり**計6回**の会議を開催し、**施策協議**及び大綱に定める**成果検証**を実施

回	日 程	場 所	協議事項	招聘者による話題提供
第1回	7/20 (火)	庁舎大会議室	協議（学校・教職員） **各学校の共通課題の解決** （現状分析・課題認識）	・国の学校教職員の働き方改革の全体像 ・今後の部活動のあり方の方向性を提示
第2回	8/30 (月)	庁舎大会議室	協議（学校・教職員） **各学校の共通課題の解決** （施策の方向性・概要検討）	・ICTを活用した業務改革の更なる視点 ・部活動の地域移行の先進事例紹介
第3回	10/13 (水)	庁舎大会議室	協議（子ども） **子どもの学びの構造転換**	・探究的な学びを支える大人の問い・関わり方 ・これからの学びに応える、学校のかたち
第4回	11/16 (火)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議（家庭・地域） **地域が支える、子どもの学びと育ち**	・地域の大人が魅せる、育むシビックプライド ・サードプレイスの更なる役割・可能性の広がり
第5回	12/24 (金)	庁舎第1・2 研修室	協議（DX） **岐阜市版GIGAスクールの更なる推進**	・デジタル・シティズンシップ教育と教育DXに向けての理解、目指す姿
第6回	1/6 (木)	庁舎大会議室	**大綱実現**に向けた**施策推進状況** **年間総括**（今年度協議の振り返り）	・「生き方の探究学習」カリキュラムの更なる発展・充実に繋がる、示唆・助言

Ⅰ−3．会議ロードマップ

● 協議の成果として、**次年度の施策を具現化** 及び **施策の中長期的な方向性・見通し** を得る

総合教育会議

第１回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
（学校・教職員）		（子ども）	（家庭・地域）	（DX）		
各校共通課題の解決	**各校共通課題の解決**	**学びの構造転換**	**地域が支える学びと育ち**	**GIGAスクール更なる推進**	**成果検証年間総括**	**R4協議**
現状分析 課題認識	施策の 方向性・概要	探究的な学び 学校のかたち	CSの深化 サードプレイス	デジタル・ シティズンシップ 教育DX	施策推進 PDCA	

市長

（仮称）岐阜市未来都市構想の策定

立案施策をともに精査・調整し、予算措置

一体的に推進

理念を共有

教育委員会

協議を踏まえた、新たな施策の検討・立案

次期教育振興基本計画（R4策定）への反映

施策実施

計画検討

2－1. 第1回、第2回 会議概要

第1回

【日　時】　令和3年7月20日（火）13:30～15:30
【場　所】　岐阜市庁舎6階 6－1大会議室
【テーマ】　**「各学校の共通課題の解決（現状分析・課題認識）」**
【招聘者】　**スポーツ庁** 政策課学校体育室長 **藤岡　謙一** 氏　（オンライン）
【協　議】

招聘者説明　・学校教職員の働き方改革全体像、学校部活動の今とこれから（展望）

事務局説明　・本市の学校業務改革の推進状況、現状把握を踏まえた課題共有

協議事項　・**DXの推進・部活動のあり方**を論点とした学校業務改革に向けて、教育委員会が優先的に**取り組むべき、解消すべき課題点**

第2回

【日　時】　令和3年8月30日（月）13:30～16:00
【場　所】　岐阜市庁舎6階 6－1大会議室
【テーマ】　**「各学校の共通課題の解決（施策の方向性・概要検討）」**
【招聘者】　**㈱情報通信総合研究所** 特別研究員 **平井　聡一郎**　氏　（オンライン）
多治見市教育委員会　教育指導監 **丸山　近**　氏　（オンライン）
【協　議】

事務局説明　・前回を踏まえた、共通理解・課題認識、施策検討の視点・素案提示

招聘者説明　・DXの推進がもたらす、子どもの学びと学校の変化の展望、学校業務改革
・学校と地域で部活動を分担・協働する、多治見市モデルの実践紹介

協議事項　・**DXの推進・部活動のあり方**の2つの観点から、学校業務改革の推進のため、教育委員会等が取り組む必要がある**具体的な施策、その方向性**について

2−2．第１回、第2回 協議総括（１） ～部活動のあり方～

協議意見の要旨

- 部活動の地域移行に向けて、**関係者**が集い、**実現のための協議・検討**を加速していかなければならない。
- 部活動の地域移行を契機に、子どもたちが**多様な活動に挑戦**できたり、**多世代のあらゆる人たちと共に活動**できたり、さらには、部活動が**生涯かけて取り組むスポーツ、文化活動の入り口**となる、そんな広がりを持つことが望まれる。
- 現在の学校による部活動が果たしてきた**教育的な意義**や**役割**についても**尊重**し、地域が担う部活動やクラブチームとも**分担、共存**する形で、**学校教育の一環として行う部活動**が実施できないか、検討したい。
- 最終的には、部活動の地域移行を通じて、**子どもたちが享受できる学びの幅やその機会を拡充させていくこと**と、元来の目的である、**教職員の働き方改革を実現すること**、この二つを両立させていく。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① （仮称）部活動地域移行推進会議を設置	・段階的な地域移行を計画的に進める、**推進プラン**を策定 ・実現に向けた各課題の整理とともに、**具体的な方策**を検討 （**部活動指針**の**改定**、**受け皿組織**や**地域指導人材**の**確保** など）
② 持続可能な部活動のあり方の模索	・近隣校の生徒が一緒に活動に参加する、**合同部活動**の検討 ・**レクリエーション部活動、スポ少・社会人チーム**との**合同活動**を検討 ・各校の実情のもと、**コミュニティ・スクール**で**あり方の検討**を行う
③ 学校教育の一環として行う、部活動の検討	・**授業時間内、教員の勤務時間内での部活動**は、**教育的な機会**としての**位置づけ**を持った部活動として、継承していく
④ 部活動に代わる、自己実現の時間への進化	・やりたいことを**自ら選択**し、地域の中で**思い思いに活動**に取組む ・自ら選択した**コミュニティ**が、**自分の居場所**にもなる（**サードプレイス**）

協議意見の要旨

- **学校の健康診断による分析**を踏まえ、多くの学校が**共通**して挙げた**業務改善項目**として、
  - ・**朝の出欠連絡の電話対応 及び その結果入力**
  - ・**勤怠データやアンケートの管理・集計業務**
  - ・**お便りや学習プリント等の印刷・配布の労力**

  が挙がった。
- 学校の業務フローを**徹底的に見直し、デジタル化**を推進すべきである。**校務支援システムの機能充実**や、**アプリ導入による業務効率化**を検討、実施する。
- 今後も、デジタルにより**学校のあらゆる業務（授業や学びも含め）**を**改革**していくためには、**教育委員会の推進部門**を中心に、デジタル環境の整備だけでなく、**意識改革**や**情報活用能力の育成**などを、**総合的に進めていく**必要がある。

協議意見を踏まえた施策検討

① （仮称）スマート連絡帳アプリの導入	・児童生徒の**出欠連絡、検温確認**を**アプリ**で**自動受付** ・校務支援システムへ**結果**を**自動反映**、一覧で**可視化** ・**保護者との連絡**を全て**デジタル化、配布物**も**データ**で配信可能に
② 出退勤管理システムの改善検討	・教職員の**出退勤データ**にかかる**集計・入力作業**の**自動化**を検討 ・**校務支援システム**とも**連動**し、手間なくデータを**管理・保存可能**に
③ 学校向け配布物のペーパーレス化	・教育委員会の指定端末から、**学校、全児童生徒**に**データ**で**一斉に配信**できる仕組みを構築。学校現場の**印刷・配布の労力**を**大幅削減**
④ 岐阜市版GIGAスクールの実現	・**情報活用能力**の**育成**や**デジタル・シティズンシップ教育**も含む、**総合的な推進計画**を着実に実施。**計画推進を担う組織強化**も検討

部活動の意義・役割について

- 学校の部活動という機会が、子どもたちの**心身の逞しい育成等**に、**大きな役割**を果たしてきた。

- 子どもたちにとっての部活動は、自ら選択し、3年間かけて活動することで、**技術や意欲**を育て、また**仲間と連帯し合う喜び**や**達成感**などを感じられる**貴重な機会**となっている。

- また教員にとって、部活動で子どもたちと関わり、指導を行った経験が、**教員個人の指導力等の向上**にも役割を果たしていたという側面もある。

部活動を取り巻く現状について

- 働き方改革の中で、**教職員の多忙**の**主要因の1つ**に、部活動が挙げられている。

- **自発的な任意での参加**が認められる形態に変わっているとともに、楽しく体を動かしたり、仲間とともに取り組む、**レクリエーション**としても捉えられつつある。

- **教員全て**が**専門的な指導力**を持つことは**困難**なため、**競技志向**や**技術力の向上**を目指す子どもたちにとっては、その**指導レベル**に**物足りなさ**を感じている**ミスマッチ**が起こっており、部活動外の**クラブチーム**や**専門的な指導者の下**で活動しているケースも多い。

- 部活動の担い手として、**地域や民間の活力を導入する取組み**はこれまでも展開されてきたが、関係者間の調整等が難しいことも相まって、**いまだ十分とは言えない。**

部活動の地域移行について

- 部活動は、これまで**教員の尽力**に頼り**維持**されてきたが、**もはや持続可能ではなくなっている。教員の負担を軽減**するため、**地域が担い手となる部活動の形**を改めて考えていかなければならない。

- 部活動のほか、**少年団などの繋がり**は**地域コミュニティ**を生み、**サードプレイス**になりうる。また**スポーツ・文化活動を通じた地域の活性化**など、**地域に期待される役割**や**関わることができる領域**は**大きい**と思う。**コミュニティ・スクール**で協議し、**取組みを具体化**していくべきである。

- 学校又は地域が担う部活動、さらにはクラブチームも含め、**それぞれに求められる役割**は**違ってきており、**その**すみ分けを整理していく**ことが大事である。

- **休日部活動の段階的な地域移行**という国の方針が、**関係者にしっかり浸透していない**ように思う。**スポーツ振興を担う担当部局（市民スポーツ課）**が**重要なポジション**であり、**各関係者での協議の場**を設け、今後のあり方を考えていく必要がある。

- 地域の担い手として、主に想定される**総合型地域スポーツクラブ、保護者クラブ**をどのように組織するか、またその運営や活動の具体については、市として**組織化を支援**するとともに、学校施設を優先利用できる**クラブ認定制度**や、**マニュアルの整備など**にも取り組む必要がある。

- 部活動に携わる、**地域の担い手の確保に困難を抱えている。**また、**地域の指導者やクラブにとって安定した環境づくり**を支援するため、自治体のみならず、**国の支援**にも期待したい。

DXによる学校業務改革について

- DXの推進が目指すところは、**ICTを活用**して**業務のやり方や手段そのもの**を**変革**することにある。まずは業務を徹底的に**標準化**したうえで、**校務支援システム**の機能充実、効果的な**アプリ**導入によりデジタル化することで、**教職員の時間**という**資源の再分配**が必要である。

- 学校の業務改革を進めるにあたり、一時的に学校には負担がかかっているかもしれないが、それは、**子どもたちと深く向き合う時間を確保**するためである。この**目的意識**を、現場の先生方には**しっかり持っていただきたい**。

- デジタル活用による学校業務改革は、デジタル環境の整備だけでなく、**教職員の意識改革**や**情報活用能力の育成**など、これらが相まって初めて抜本的な変革が実現できる。**教育委員会の推進部門**がその**全体像を描き、総合的に進めていく**べきである。

検討すべき改善点について

- 児童生徒の出欠連絡が**電話**で行われており、朝はその対応だけで忙殺されている。また、その出欠については、教職員が**諸帳簿への記録を別途、手作業で行う**必要がある。

- 学校には未だ**多くの紙**が溢れており、お便りや学習プリント等の**印刷・配布**には、多くの**時間と手間**がかかっている。

- 今後、**教職員の校務データ**についても、**セキュリティ・ポリシーへの対応**を踏まえながら、**クラウド上で管理**することが主流となっていく。教職員の働き方改革にも、大きな効果を持つのではないか。

3−1．第3回 会議概要

第3回	
【日　時】	令和3年10月13日（水）13:30〜15:30
【場　所】	岐阜市庁舎6階 6−1大会議室
【テーマ】	**「子どもの学びの構造転換」**
【招聘者】	**京都大学総合博物館** 准教授 **塩瀬 隆之** 氏（オンライン）
【協　議】	事務局説明 ・草潤中学校及びハイブリッド式授業の実践、成果・課題 ・本市が見据える「子どもが主体の学び」の方向性と検討課題 ・小中一貫校の実践紹介と、その成果・課題 ・本市が目指すべき、「9年間一貫した学び」の方向性と検討課題
	招聘者説明 「問い」から考える ・教員や地域の大人のあるべき、子どもとの関わり方について ・これからの学校に望まれる役割、あるべき姿について
	協議事項 ・本市の学校が見据える**「子どもが主体の学び」**について ・本市の学校がこれから目指していくべき**「9年間一貫した学び」**について

協議意見の要旨

- **学びの主体を真に子どものもの**とするには、子どもが**自ら学びを選択**し、**自律的に学んでいく姿**の実現が必要。**草潤中学校の実践**を**各校へ展開**する、教員が**コーチングの役割**を担うなど、その姿に**一歩ずつ**近づいていかなければならない。
- 子どもが主役となる、**アウトプット**と**フィードバック主体**の**授業スタイル**に変えていくことが大切。その際、**デジタル**を**駆使する**ことで、**授業デザイン**を**創意工夫**したり、活用できる**教育リソース**を**格段に広げていく**ことができる。
- **自律的**に、**探究的**に**学ぶ**ための**ベース**となる**知識・情報**を自分で**選び取り**、**マイペース**で学んでいける、**AIドリルなどの学習環境**の構築が**必須**である。
- これまでの小中一貫教育の成果や見えてきた課題を踏まえ、**本市が目指す子どもの学びの姿**をより**具現化**できる、**教育環境**や**学校形態**を常に**追求**していかなければならない。

協議意見を踏まえた施策検討

❶ 草潤パッケージの各校への展開	・草潤中学校での実践を紐解き、教員研修の機会などを通じて、その**ノウハウ**を**共有**するとともに、**各校ならではの形**で取組みを検討
❷ デジタルを駆使した授業モデルの構築	・デジタル端末、電子黒板、学習支援ソフト等を**フル活用**した、**新たな授業の姿**をモデル校で**デザイン**し、そのノウハウを**他校**へと**展開**
❸ 新たなデジタル学習教材の導入検討	・**学びの土台**となる知識や情報などの**基礎力**を、**一人ひとりにあった内容・進度**で**ドリル学習**が可能な、デジタル学習教材の導入を検討
❹ 電子書籍を活用した学びの充実	・授業での活用のほか、**興味・関心**を広げたり、**探究的な学び**の中で、自分の端末から様々な書籍を閲読できる、**電子書籍ライセンス**を取得
⑤ 多様な学校のかたち・可能性の検討	・藍川北学園ほか、**小中一貫校としての試行実践**を**リード**してきた**各校**について、更に**一体型小中一貫校**、**義務教育学校**への**可能性**を検討

学校の学びの目的について

- 子どもたちは、**自分の将来や夢**に思いを馳せ、その**幸せな未来をつくり出せる力**を**学び得る**ために、学校に来るのである。

- **学校の学びと社会**を**常にリンク**させる。社会に求められる、**生きる力**や**スキル**とは何かを**常に捉え**、学校の学びを創っていかなければならない。

- 学校の学びを社会に生かす視点を育てることは、**自分はこれからどう生きていくのか**ということを考えることに繋がるし、**生命の尊厳への理解(生き方の探究学習)**の考察にも繋がると思う。

子どもが主体となる学びについて

- **主体的に学ぶ**こととは、**学びたいときに、学びたいところで、学びたいことを学ぶ、**これらを**自ら選択できる**ことであり、これが**未来の学校、教育の目指す姿**となっていくのではないだろうか。

- これまでは大人が、皆に同じ一つの価値観で、定型的な学びを与えてきた。これからは、子どもたちが**真に学びの主体**となるよう、**学びを委ねる**ことで、**自ら学びたいことを見つけ、自律的に学んでいく**ことが大切である。それこそが**学びの転換点**である。

- 自分自身で学びを選択し、その**学びを掴み取る経験**が、自分への**自信**、ひいては**自己肯定感**の醸成にも繋がるのではないか。

草潤中学校について

- 草潤中学校は、子どもたちに**どれだけ学びの選択権を持たせられるか**、チャレンジした学校。その学びの姿が、これからの本市が目指す教育の方向性を指し示している。
- 草潤中学校の取組みや先生方のノウハウ・実践を少しずつ、部分的にでも**他の学校へ展開、波及させていく必要**がある。**教員研修**なども通じて、その理念・取組みの輪を広げてほしい。
- 今、全ての学校で一律に、草潤中学校と同じことをやるのは、現実的に困難。**エッセンス**、**英知**となる部分を結集し、**それぞれの学校ならではの取組み**で、まずは**第一歩**を進めていくことが大事。
- **わがまま通信簿**については、創意工夫で他の学校にも導入できる可能性があると思う。

これからの学び方について

- これからの授業の形は、自らが考え、**アウトプット**することを中心とした学びであるべきで、さらに、他者から評価を受け自己の考えを振り返る、**フィードバック**の過程が重要である。
- アクティブ・ラーニングや探究的な学びなど、**既に実践している学びの質**をさらに**高め**、**レベルアップ**していくことが大切だと思う。
- 一方で、興味・関心を持って学びを選択したり、探究しアウトプットしていくためには、**学びのベース**となる知識・情報など、**基礎力の習得**が**不可欠**である。一人ひとりに合わせて、自動的に学びを深めていける、**AIドリルなどの学習環境**が**必須**であると感じている。
- アウトプットやフィードバックを行う**ツール**としても、**デジタル**が**不可欠**である。学校のコンピューター室に、**協働的なアウトプット**のためのツールを整備し、**マルチメディアルーム**として活用する例もある。

教員の役割について

- これからの教育における教員の役割は、ティーチングではなく、**学びを支えるコーチング**である。一人ひとりの成長に合わせたサポートを行い、**伴走して関わること**が求められている。

- アウトプットすることを楽しいと感じたり、教科書の知識と現実社会の課題を結び付ける機会を作ることで、子どもたちが学びに向かう楽しさや、学びたい何かを見つけることに繋がっていくと思う。

- 好きなことだけを学ばせるのではなく、**本当に必要なこと**であれば、**なぜそれを学ぶべきなのか**、先生がしっかりそれを**説明し理解させる**ことで、子どもたちの**選択**を**促していく**ことが必要である。

- まずは教員はじめ、**大人自身**が背中を見せるべく**やってみること**が大事。**大人こそが主体的に学ぶことができているか**、今一度問いたい。

9年間一貫した学びについて

- これまでの小中一貫教育から更に前進し、**9年間一貫した学びの意味**を**より深く考える**必要がある。**学びの目的ベース**で学校教育を設計できる、**これからの学校の形**を考えていく必要がある。

- 幼児教育の充実として、この**小中9年間のターム**に、**“幼” の期間も加えて考える**必要はないか。

- その環境にフィットしない子にとっては、**9年間を過ごす辛さ**が残る。**別の選択**ができることも必要。

- 9年間の後、高1でのギャップが生じることについては、むしろ**9年間**のうちに**どうギャップを生み出し、それを乗り越える力を身につけるか**、発想を変えることが重要。

第4回

【日　時】　令和3年11月16日（火）13:30～15:30

【場　所】　みんなの森ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

【テーマ】　**「地域が支える、子どもの学びと育ち」**

【招聘者】　**白川村立白川郷学園** 校長 **大坪 稔** 氏

NPO法人コミュニティサポートスクエア 代表 **杉浦 陽之助** 氏

【協　議】

事務局説明
- コミュニティ・スクール及びサードプレイスの現状分析及び課題認識
- 課題に対する施策検討の視点及び素案提示

招聘者説明
- 地域の大人が魅せる生き方を学び、社会とつながる「村民学」の実践紹介
- 学校と地域の協働カリキュラムの充実、教育を土台としたまちづくりの推進

- 子どもたちと向き合い続ける「コミュニティ・カフェわおん」での実践紹介
- 実践から紐解く、サードプレイスの有用性や今後の可能性を展望

協議事項
- **コミュニティ・スクールの深化**、**サードプレイスの充実** を更に押し進めるため、教育委員会等が取り組む必要がある **具体的な施策、方向性** について

協議意見の要旨

- コミュニティ・スクールを、学校主導から**地域と学校**が**対等の立場**で**協働する組織**へと**深化**させなければばならない。
- 子どもたちの**才能**や**可能性、将来の夢**を**拓く**ため、**地域の教育人材・資源**の**力**を**結集**した**学習プロジェクト**を検討する。
- 地域に息づく**人の生き方**や**文化**を**学ぶこと**を通して、**子どもたちの心**に、**このまちへの誇り**や**愛着**を育んでいきたい。
- 教育的なアプローチから、**社会教育施設**での**サードプレイスの取組み**を**充実**させるとともに、今後は**福祉的な役割**をはじめとする、**多様な担い手**と**繋**がりながら、**全ての子どもたちの思い**に応えていけるような広がりを目指していく。

協議意見を踏まえた施策検討

① (仮称)ふるさと岐阜市学の創設	・**ぎふのまち**を舞台に、**人の生き方**や**地域の誇れる文化**を通じて、子どもたちの**シビックプライド**を育む、学習カリキュラムを実施
② (仮称)君が夢を拓くプロジェクトの検討	・子どもたちの**才能**や**可能性**を**拓く、魅力的な教育人材**をリスト化、**土曜授業**や**CS**で**"本物"**に触れる、多様な教育プログラムを展開
③ CSの更なる深化に向けた改革	・委員に、**卒業生**や**若い世代**の参画を促進 ・児童生徒がCSと一緒に、**地域の未来を考える熟議の場**を設置 ・**CS同士**が学び合い、活動の質を高め合うための**交流会**を企画
④ サードプレイスのネットワーク構築	・各施設の**魅力発信**とともに、**学びを繋ぐ「学びのパスポート」**を**作成** ・分野や官民の違いを問わず、**多様な担い手同士**の**連携・協働**を志向

コミュニティ・スクールの深化について

- **「科学する」**という、単に見聞きするだけではない、その事象の**根拠**や**データ等**にも**関心を持ち、調べたり思い巡らすプロセス**が、まさに**深い学びそのもの**となっている。そしてその深い学びが、**ふるさとを慕い、携わろうとする強い気持ち**を育んでいるのではないかと感じた。

- 地域と学校が**対等の立場**で、**共に子どもたちを育てていく**という高い理念を、本市のコミュニティ・スクールも見習い、浸透させていかなければならない。

- 白川村のように、岐阜市でも**ふるさと先生**を**1000人**集め、**共に子どもの学びや学校を支えていくプロジェクト**を実現したい。個人や団体だけでなく、**企業のCSR**における活力も取り込んでいく。

- **人の生き様**や**地域の文化**に触れることで、子どもたちに、**このまちに生きる私**という**プライド**や**アイデンティティ**を**育む**ことに、改めて正面から取り組んでいきたい。

- 学校運営協議会の委員に、**若い世代**や**児童生徒**、**卒業生(高校生、大学生など)**を加え、**新たな視点**や**活力**を取り込むことで、コミュニティ・スクールをより深化させていく必要がある。

- コミュニティ・スクール同士が繋がり、**取組みを共有し高め合う機会**を設けることが必要である。

- 今後、コミュニティ・スクールの活動全体を組織する**コーディネーター(地域学校協働活動推進員)**には、**専門性のある常勤**を**しっかり置く**ことが必要である。

- コミュニティ・スクールにおける地域と学校の枠組みに**家庭**をしっかりと含め、**地域が家庭に対して果たせる役割、可能性**にも言及していく必要がある。

サードプレイスの充実について

・サードプレイスの**あり方**として、その答えには**際限がない**。だからこそ、**無限の可能性**がある。

・**全ての子どもたちに開かれた場所**という観点で、サードプレイスを考えたとき、教育委員会としては、まずは**社会教育施設等**の**持ちうるリソースを生かした取組み**を展開しつつも、**教育だけに留まらないアプローチ**も含む、**セクションを超えた取組み**に発展させていく必要がある。

・子どもたちのサードプレイスとなり得る場所を広げ、**良質な選択肢**を**たくさん用意していくこと**が求められる。**オンライン上**のサードプレイスも、その可能性の一つとして十分にあり得る。

・**学校・教職員**が**サードプレイスへの理解**を深め、自分たちだけではなく、学校の外にあるこれらと繋がりながら、**共に子どもを見守っていく協働**が望まれる。

・サードプレイス同士を**ネットワーク化**し、誰もがアクセスできるよう**情報発信していく**必要がある。認定を受けたサードプレイスには、子どもたちが**タブレットからでも繋がれる**ようにするなども考えられる。

・自分を**フラットに受け入れてくれるサードプレイス**と、その子の**ありのままを認める草潤中学校**の姿には、相通じるものがある。

・子どもたちのコミュニケーションの場に留まらず、そのコミュニティに対し**子どもたちが仕掛けていく、役割を持って取り組める**ようなサードプレイスの姿もあっていい。

・**放課後児童クラブ**も児童のサードプレイス足り得ると捉え、そこで**できること、可能性**を広げてほしい。

5−1．第5回 会議概要

第5回

【日　時】　令和3年12月24日（金）13:30～15:30

【場　所】　岐阜市庁舎12階 第1・第2研修室

【テーマ】　**「岐阜市版GIGAスクールの更なる推進」**

【招聘者】　**岐阜聖徳学園大学**教育学部 教授 **芳賀 高洋** 氏

【協　議】

招聘者説明
- デジタル・シティズンシップ教育の推進 及び 教育DXが導く、これからの学びや学校の未来像について
- 子どもたちのデジタル・シティズンシップを育む、具体的な取組みについて

事務局説明
- （仮称）岐阜市GIGAスクール推進計画について
- 今年度の教育DXの取組状況について
- 教育DXによる学びの個別最適化に向けて（学校長としてのビジョン）

協議事項
- **岐阜市GIGAスクール推進計画（案）の構成・内容**について
- **デジタル・シティズンシップ教育**と**教育DX**を更に進めるために、**必要と考える取組み**について

協議意見の要旨

- 子どもたち一人ひとりの**個別最適な教育の実現**のため、**総合的なデジタル化の推進**を図る**「岐阜市GIGAスクール推進計画」**の**施策一つ一つ**を**着実に実行**していく必要がある。
- **デジタル・シティズンシップ教育**は、これからの**デジタル社会の主権者たる全ての人**に**必要な思考**であり、その**土台**を子どもたち一人ひとりの中に**しっかりと築いていく**ための**学び**を、**大人も共に理解しながら**作っていかなければならない。
- **教育DX**の具現化には、**データサイエンス**の思考やデジタル化への**抜本的なマインドチェンジ**を伴いながら、そのうえで、いかに**デジタル**により**子どもたちの学び**や**学校の姿**を**より良く変化**させていけるか、**挑んでいく姿勢**が必要である。
- 今後、**学校**が**デジタル**と**常に隣り合う学びの場**となっていくのと同時に、これからも**魅力ある学びの場であり続ける**ためには**どんな学び舎**であるべきなのか、**将来的な学校という施設のあり方そのもの**とも**リンク**した議論が必要である。

協議意見を踏まえた施策検討

① **デジタル・シティズンシップ教育の展開**	・**岐阜聖徳学園大学**と連携した、**授業モデル**や**学習教材**の検討、**保護者向けの研修プログラム**の実施
② **未来の教室づくりを目指す デジタル環境の充実**	・デジタルを駆使した授業における**学びの柔軟性**を高める**ツール**の整備として、教室の**電子黒板**の**リニューアル**を検討
③ **ICTを活用した子どもの健康サポート**	・㈱**文溪堂**と連携し、子どもたちの**日々の心と体の健康**をデジタルで**可視化**し、的確に**把握・情報共有**できる**システム**の**開発・実証**を行う
④ **未来を見据えた、これからの学校の グランドデザインを検討**	・現在実施中の**各地域CS**との魅力ある学びの場づくりに向けた意見交換の結果も踏まえ、今後、**有識者協議の場の設置**を検討していく

GIGAスクール推進計画について

- 計画に込められた**思い**は、**子どもたち一人ひとりの個別最適な教育**を実現することにある。**総合的なデジタル化の推進**により、これからの本市の教育を**どう変革していくのか**、その**未来図**をしっかりと描き、示していく必要がある。

- **不易流行**の言葉どおり、教育の**変わることない価値**に、**新たな考え方、学び方、ツール**などが重なることで、**時代に応じた教育の姿**を実現していくことが大切だと感じている。**デジタルネイティブ世代**こそがこれからの計画推進をリードしていってほしい。

- 計画の柱となる5つの基本方針については、妥当である。**産・官・学との連携**については、**近隣の各大学**からの参画を得るとともに、**将来の社会人材の育成**という観点から、**地元企業はじめ産業界**からも広く参画いただきたい。

- GIGAスクールの更なる推進には、学校長のマネジメントを重視することはもとより、さらに**学校現場への専門人材の配置**、また**教育委員会**の**バックアップ機能**や**組織体制の強化**も必要である。

- デジタル環境の整備をはじめ、**現在モデル校で行っている実証**については、しっかりと**検証**したうえで、積極的な**導入・施策化**、他校への**横展開**に**繋げていく**ことが大事である。

- コロナ禍における**ハイブリッド授業**の実施など、**本市の取組み**は**他市をリード**し、**評価**を得ている。その一方で、現在は**その歩み**が**ストップ**してしまっているように感じる。

- **オンライン**が定着する中、**対面する**、いわば**学校という場所ですることの意味**が益々深く問われることとなるが、これらを**二項対立**させるのではなく、**共生**する、**相乗的に作用**する**価値付け**が必要である。

デジタル・シティズンシップ教育について

- デジタル・シティズンシップ（以下DC）の浸透が、**コミュニケーション**の**相手**や**その形**、または**物事の捉え方**、**考え方**を更に**広げていく**。そしてその広がりを受け止めるべく、**個々の価値観**、**多様性**を**認め合う素地**を一人ひとりが形成していく必要がある。

- DC教育は、これからのデジタル社会において、**主権者たる市民の教育**としても重要である。これまで本市が進めてきた**法教育**で培われた**土台**をさらに**強固**に、**確かなもの**としていくものとも考えられる。ぜひ、その積層を厚くしていくような施策が望まれる。

- 自身で制御できない、過度な**デジタル依存**に陥ることが無いよう、DC教育の中で、**メディアバランス**を**能動的**に**コントロール**できる考え方、力を育てることにも力点を置いていただきたい。

- 子どもたちがタブレットを**第2の先生**として、自ら学びを広げていくためには、その**積極的な利活用**を**肯定的**に捉える、**DCの思考**を身につけていくことが有効である。しかし、その前提として何より、まずは**教員**、**保護者**が**DCの考え方**を**理解**し、子どもたちに**正しくその姿**を示していかねばならない。

- DCについては、まず教員に十分な理解が求められる。子どもも大人も問わず、DCを**体系的に学ぶ**ための**教材等**も活用できるとよい（招聘者より、経済産業省「未来の教室事業」の事例を紹介）。

- さらにDCの社会的な浸透を図るためには、教育界隈だけの動きに留めることなく、**市全体**、**社会全体**の**デジタル化に対する肯定的な理解**を高めていくことが必要である。

教育DXについて

- 教育DXによって、**学校**という**場所**、また**その役割**は**どう変わるか**において、その変化は**アップデートではなく、教育のOSそのものの変更**であると捉えるべきである。**教室の風景**や**授業デザイン**も変わるだろうし、**学級**は**熟議**と**フィードバック**を**共に行う場所**、**仲間**に変わっていくのではないかと思う。

- これからの教育は、**先生の主観による判断**ではなく、**客観的な指標（データによるエビデンス）**に根拠を求め、その**分析**から**一人ひとりの個別最適な学び**を導き出していく必要がある。

- GIGAスクール推進計画や教育DXの歩みを逆回転させないためには、これまでの**原理原則に対するマインドチェンジ**を**徹底**して行うことが必要である。**ペーパーレス**についても、**タブレット**や**デジタルツールをいかに活用するか**をまず念頭に、**考え抜くこと**に尽きるのではないか。

- 則武小が**“学び合い”**という**学校理念**を**達成**するため、**デジタル**を**大いに活用**している点は特筆すべきで、**イエナプラン**など**今後の新たな教育**を**実践**していくためにも、**デジタル活用**は**マスト**である。

- 子どもたちの**心と体の状態**を**一元的**に**把握**し、より**きめ細やかなサポート**の**実現**を図る**電子カルテ**の提案については、より多くの情報を集約し、**複合的な判断・対処**ができるよう、その**精度**を**高めていってほしい**。無論、ツールや情報だけに頼らず、子どもたちと**直に向き合うこと**の**絶対的価値**は変わらない。

- 今後、**教育DX**が**更に進む中**で、**学校という場所**はこれから**どんな環境**であって、**どんなハード整備**が**必要**なのか、**将来に控える施設更新**とも**リンク**させて、**議論**を深めていっていただきたい。

6−1．第6回 会議概要

第6回	
【日　時】	令和4年1月6日（木）13:30～16:00
【場　所】	岐阜市庁舎6階 6−1大会議室
【テーマ】	**「大綱実現に向けた施策推進状況**（第1部）**」「年間総括**（今年度協議の振り返り）（第2部）**」**
【招聘者】	**岐阜大学教育学部附属小中学校** 校長 **古賀　英一** 氏（第1部）
【協　議】	（第1部） 事務局説明 ・教育委員会における「生き方の探究学習」の取組み状況報告 ・柳津小学校における「生き方の探究学習」の実践状況報告 招聘者説明 ・附属小中学校における「どう生きる科」のこれまでの実践紹介 協議事項 ・**生き方の探究学習**の取組みを更に**充実・発展**させていくために、今後必要と考える**視点**や**具体的な施策**について （第2部） 事務局説明 ・今年度の会議における協議振り返り 及び 協議成果 報告 協議事項 ・今年度の**協議成果**及び**継続協議事項**についてのご意見・ご提案

6−2．第6回 協議総括

施策推進状況の評価

- 生命観を構成する3つの要素を、既存の学習内容とリンクさせることに留まらず、これらの要素を**より深く、手応えを持って学べる**ような、ねらいを持たせた**モデルカリキュラム**を**構築**し、**全校共通の取組み**として**広げていく**ことも必要である。
- 地域の人・物・事、これら**地域の教育資源**を大いに**活用**することで、生き方の探究学習の**カリキュラムの可能性**を**一層広げることができる**と思う。**コミュニティ・スクール**などの**ベースを活かしたカリキュラム**も、各校区毎に検討してはどうか。
- **体験**すること、**自らの考え**を**行動に移す**こと、また**他者の視点や意見**から**フィードバックを得る**ことなど、これらを**カリキュラム**に**体系的に取り込む**ことで、**自ら学んでいるという意識や学びの実感を持てる**ような取組みとなってほしい。
- 生き方の探究学習の更なる充実のためには、各校区での**カリキュラム策定**への**助言**や、**教職員**の**指導スキル向上**に資する**研修**の実施など、**各学校での取組み**に対する**支援機能**を**充実**させる必要があるのではないか。

協議意見を踏まえた施策検討

① 全校共通のモデルカリキュラムを検討	・**生命観**を構成する3要素それぞれを**コンセプト**に据えて、**有識者等の知見**も活用しながら、**モデルカリキュラムの構築**を図る
② 地域と共に創る、多様な学びの機会の創出	・CSの持つ**地域の教育力**や（仮称）君が夢を拓くプロジェクトの**人材バンク機能**も活用しながら、**多様な学び**の機会を創出
③ 各校での取組みの充実を支援する、アドバイザー機能の検討	・**各校の取組みの底上げ**を図るため、**専門的な立場**から学校課題やニーズに応じた**指導・助言**を行う、**アドバイザー人材**の設置を検討
④ 生命の尊厳への理解を深める、いじめ防止のための取組みの充実	・各校のいじめ対策監の**統括役**とともに、**全市的ないじめ防止の取組みの充実**や**横展開**を推進する、**ミドルリーダー人材**の設置を検討

7．協議事項

● これまでの説明を踏まえ、主に**以下2点の事項**について、**ご協議**いただきたい

① 今年度の協議成果 に対する **ご意見・ご提案** について

② 次年度の総合教育会議 において **協議すべきと考える事項** について